

中国民放クラブだより

日本一豪華なグルメの会

小林 真人(TYS)

全国民放クラブの中で会員数が「限界集落」の様相を呈していた山口支部に支部役員の努力の結果、一気に会員が増えて特に若い女性陣の増加は会の中に活気があふれています。

というところで、今回の「グルメの会」は日本一豪華な集いとなりました。

山口県内でも滅多に手に入らないことは勿論、安倍首相がワシントンを訪問してオバマ大統領との晩さん会に出された今や世界ブランドの「瀬祭(だっさい)」が浴びるほど飲めるのですから・・・これが日本一豪華なグルメの会の所以です。

「瀬祭」の醸造場はこの時期見学は不可なのですが、江口支部長と旭酒造の桜井博志社長が昵懇であることから無理を言って実現したものです。7月22日(水)はあいにくの雨にもかかわらず22名が参加しました。民放クラブの存在を知ってもらおうと元山口県知事の二井関成氏にも声をかけたところ快

諾を得て参加していただき、呑べえで(失礼!)半分山口支部会員の下村博子さんにも広島から参加していただきました。

JR徳山駅に集合した一行はマイクロバスで約40分走ったところで山間の一角に忽然と現れた12階建のビルに一同あ然!今年4月に27億円をかけて建設された「瀬祭」の本社工場なのです。



山間に忽然と現れ威容を誇る「瀬祭」本社工場

まず、一行は桜井社長の出迎えてを受けて工場内を見学。他の醸造場では杜氏さんが冬場酒を造るの春に「新酒」と称して販売するのが普通なのですが、この「瀬祭」には杜氏がいらないのです。全国の杜氏も高齢化が進み年々人材確保が難しくなっています。

ならば温度管理など冬場の酒造りの環境を年間通して保てれば社員だけでも出来るはずという訳で綿密なデータの数値化とカンを駆使して桜井社長をはじめ、社員の手によってあの「瀬祭」が醸造されているのです。勿論全てコンピュータという訳ではなく麹と米を混ぜる行程などは全て昔ながらの人手に頼っています。



厳密な管理で年間醸造を実施 見学者一同品質にナットク

今や全国的に「瀬祭」の需要が多く、供給が追い付かない状態で全出荷量のうち山口県内が2割、アメリカ、フランスなど海外が1割、東京、大阪など全国が7割だそうです。見学した会員でも一人1本の限定販売。それだけ入手が難しいという事です。旭酒造も過去には厳しい時代もあり、今の繁栄が当初からあった訳ではありません。

せん。詳しいことは『逆境経営』(ダイヤモンド社)をお読みください。



醸造工場見学後の会食は「瀬祭」で乾杯 前列中央が二井元知事

さて、「瀬祭」醸造場見学の後は徳山駅近くの料亭「鐘楼亭」へ場所を移し、江口支部長が醸造場から無理を言って買い求めた「瀬祭」で乾杯。個人的には小生がニュースキヤスター時代、視聴率競争をしていたライバルの山口放送の旧姓向田さんも参加され、お互いリタイアしたところで記念ツーショット撮影でノーサイド。酔うほどに現役時代の話がはずみ、アツという間の2時間が経過。次回は「フグチリ」で再会を約束し、ほろ酔い機嫌で会場を後にしました。